

平成26年度発掘調査遺跡の紹介

さかい づか 境 塚 遺 跡

(阿賀野市百津字境塚16-1ほか)

遺跡は水原市街から南西1kmの水田地帯にあり、阿賀野川右岸に形成された標高7~7.5mの自然堤防上に立地します。阿賀野バイパス関連で平成21年に行った調査では、13世紀後半~14世紀前半の道とこれに沿う掘立柱建物、そして、道から約200m南東で同時期の堀を持つ居館が見つかりました。平成26年の調査はこれに続くもので、道の南東側に隣接する範囲(E地区)と、居館の北西側に隣接する範囲(G地区)など、6,480㎡について行いました。

E地区では、道から約15~45m離れた範囲を中心に掘立柱建物13棟・井戸21基・土坑47基・溝27条などが見つかりました。掘立柱建物は長さ約10mで二面に廂が付くものが

3棟あるほか、出入り口のある溝に囲まれた長さ約7.5mのものが1棟(図1中央右)あります。井戸には井戸側を持つものが3基あり、大型曲物や建材を転用した側板、刀子や釘等の鉄製品が出土しました。また、井戸の下部に意図的に土師質土器の皿や小皿が入れられたものがあり(図2)、井戸の祭祀として注目されます。今回の調査によって、道から離れた奥側に大きな掘立柱建物と井戸が集中することが分かりました。そして、掘立柱建物が道に軸を合わせて建てられていることから、ここは道を基軸とした町場であったと推定されます。

G地区では、井戸3基・土坑14基・溝14条などが見つかりました。溝はT字状に分岐しながら伸びるものや方形に巡るものがあります。土器は瓷器系陶器の比率が高く、瓦器の風炉や輪花火鉢といった希少品も出土しました。掘立柱建物は確認できないことから、居館とは性格の異なる場であったと考えられます。

13世紀後半に行われた幹線道の整備と、これを基軸とした町場の形成や居館の構築が行われた背景には、南西に広がる百津潟や阿賀野川の河川交通の利用があったものと推定されます。(荒川隆史)



図1 E地区の遺構(北西から)



図2 E地区の井戸から土師質土器が出土した様子



図3 G地区で見つかった溝や井戸

やま ざき 遺 跡

(柏崎市大字藤井字山崎地内ほか)

山崎遺跡は、鯖石川により形成された柏崎平野中央部の扇状地に立地します。発掘調査は、一般国道8号柏崎バイパス事業に伴い実施しています。平成22年度に続いて、2度目となる今年度は約8,300㎡を調査しました。これまでの調査で鎌倉時代から室町時代（13～15世紀）にかけての集落であることがわかりました。

遺跡は現地表面から約1m下、標高5.5m前後で見つかります。遺構は集落を構成するものが中心で、現在の県道沿いに特に集中しています。掘立柱建物は約15棟確認できました。建物は現在も検討中ですが、身舎が2間×3間で、東西に廂（あるいは縁）、北側に張り出しが付く建物（約10m×7m）が最大規模になります。井戸は約140基あり、遺跡内でまばらに分布します。深さ100～150cmのものが多く、すべて素掘りです。建物の周辺には、幅30～100cm前後の溝が建物軸に平行するように位置します。これらの溝は集落内を区画するもので、建物もこれに合わせて建てられています。また調査区中央の幅2mを超える大型の溝を境に、北側は遺構が少なく配置に規則性もなくなります。この溝は集落の内と外を区画するものかもしれません。

遺物は土器や陶磁器、木製品、磨石や砥石などの石製品、銭貨などが出土しています。このうち主体となるのは土器や陶磁器で、珠洲焼・土師質土器・青磁・瀬戸焼・美濃焼など13～15世紀のものが多く、わずかに平安時代の須恵器や近世の陶磁器も見られます。木製品では曲物などが主に井戸から出土しました。

出土遺物から13～15世紀（鎌倉から室町時代）の集落遺跡であることがわかりました。この間、集落は断続的に営まれたと考えられ、隣接する丘江遺跡（集落跡）、宝田遺跡（水田跡）と共存する時期もあります。平成15・16年度に調査した東原町遺跡とともに、鯖石川流域で相互に比較検討できる調査事例となりました。

(藤村ヒューム管株式会社 白井雅明)



遺跡近景（北から）



遺構が集中する範囲（写真上が北）



素掘りの井戸（南から）



廂の付く掘立柱建物（北東から）

平成26年度整理作業遺跡の紹介

よこ
横 マ ク リ 遺 跡

(糸魚川市大字田伏字横マクリ)

横マクリ遺跡は西頸城山地^{にしくびき}から日本海へのびる丘陵の裾に立地します。海岸からはわずか400mの距離にあり、標高は8m前後です。一般国道8号糸魚川東バイパスの建設に伴い、平成18・19年に発掘調査を行いました。調査面積は約3,400㎡です。平成18年の発掘調査については既に報告書が刊行されており、今年度は平成19年に発掘調査した地区の整理作業を行っています。

遺跡は2層あり、平安時代の上層、地表下約1mに古墳時代の下層があります。上層からは、古代の浅い川跡が平行して6条見つかりました。川跡からは土器や木製品が出土しましたが、そのうちの1つからは10～11世紀の土師器^{はじきわん}碗と多量の製塩土器が出土しました。製塩土器はほとんどが指頭大の破片に砕けています。また、川跡と前後するように、土石流と思われる跡も見つかっています。横マクリ遺跡の山側に隣接して田伏山崎遺跡が存在しますが、同様に川跡とそれを覆うように土石流の跡が発見されており、製塩土器が多数出土していることから、山側から流れてきたものと推測できます。

下層からは、古墳時代の土坑・溝・ピットなどのほか、土器が集中している場所が数か所見つかりました。居住の場もしくは廃棄場であった可能性があります。土器は壺・甕^{つぼ}・甕^{かめ}・高杯^{たかつき}・器台^{きだい}などがありますが、赤彩されたものは少なく、ほとんどが日常的な器であったと考えられます。土器のほかに石製品が出土していますが、その中で玉類の未完成品が約60点出土したことが注目されます。すべて未完成品であることから、完成品は遺跡の外に持ち出したと考えています。種類は棗玉^{なつめだま}・白玉^{うすだま}・勾玉^{まがたま}があり、石材は緑色凝灰岩^{りょくしよくぎょうかいがん}・滑石^{かつせき}・ヒスイ・蛇紋岩^{じゃもんがん}の4種類があります。その中でも棗玉の未完成品は珍しく、糸魚川市南押上遺跡^{みなみおしあげ}に次ぐ貴重な事例となります。

(坂上有紀)



遠景 (南西から)



上層で見つかった川跡 (南から)



上層川跡から出土した土器



下層から出土した玉類の未完成品 (右端は爪楊枝)

越後国域確定1300年

縄文時代の新潟県



巡回展「遺跡が語る新潟県の歴史」開催のお知らせ

越後国域確定1300年記念事業の一環として、平成24～26年度に、新潟県教育委員会が発掘調査した遺跡の旧石器時代から平安時代の逸品を新潟県埋蔵文化財センターで展示しました。今回はその3年分の展示品を再構成して展示します。期間中には展示説明会や講演会を行います。ぜひ、ご参加ください。なお、講演会は新潟県立博物館への申込みが必要です。

【日時】 平成26年12月20日（土）～平成27年3月22日（日）
9:30～17:00
※毎週月曜、12月28日～1月3日休館（1月12日は開館、翌13日が休館）

【会場】 新潟県立歴史博物館 企画展示室
長岡市関原町1丁目字権現堂2247番2 電話：0258-47-6130

【料金】 「遺跡が語る新潟県の歴史」展示の観覧、講演会は無料です。
（常設展は観覧料が必要で、観覧券発売は16:30までです。）

【交通】 バス：長岡駅大手口7番線から「県立歴史博物館行き」約40分
自動車：関越自動車道 長岡ICから5分 駐車場 184台

【講演会 申込先】
新潟県立歴史博物館講座係
TEL：0258-47-6135
FAX：0258-47-6136
メール：koryu@nbz.or.jp



あおた
新発田市青田遺跡
大型建物のクリ材（後列 直径約50cm）

展示の見どころ

縄文時代は狩猟・採集生活の基本道具である縄文土器、石器のほかに、高度な技術を実感できる漆工芸技術関連の遺物などを展示します。

弥生時代から古墳時代は、稲作の浸透に伴い発達した木製農具や、米の調理方法の移り変わりを物語る土器、大和王権の拡大によるお墓の変化について展示します。

古代に入ると律令制の導入に伴い「越後国」「佐渡国」が置かれます。律令制度に関わる文字資料や祭祀資料、土製・木製・鉄製生業具からは現代の生活の基礎がこの頃出来上がったことがわかります。



(石匙の長さ7.84cm)
だいぶ
長岡市大武遺跡
うるしひも (下)・うるしぬりどき (中央左)・いしさじ (中央右)
漆紐 (下)・漆塗土器 (中央左)・石匙 (中央右)



えんめいじ
上越市延命寺遺跡
木簡 (長さ48.5cm)



胎内市
どいた
土居下遺跡のおおし
(長さ82cm)



のなかどてつき
新発田市野中土手付遺跡・聖籠町山三賀Ⅱ遺跡
やまさんが
生業具 (右下長さ11.8cm)

埋蔵文化財センター展示替えのお知らせ 12月20日（土）からエントランスにて、関川村カヤマチ遺跡・魚沼市町上遺跡（縄文時代）・新発田市小船渡遺跡（中世）の遺物や遺構の写真パネルを展示します。

新発田市青田遺跡の掘立柱建物と復元図の訂正

平成26年度越後国域記念企画展「遺跡が語る縄文時代の新潟県」は新潟県埋蔵文化財センターにおいて平成26年7月26日から12月7日まで開催してまいりました。その間多くの皆様にご来場いただき深く感謝申し上げます。この期間中、県民の方から青田遺跡の掘立柱建物復元図（図3の報告書掲載復元図）がおかしいのではないかとのご指摘を受けました。確認したところ、誤りがあることが分かりましたので、以下でご説明します。

青田遺跡は越後平野北部の沖積低地に営まれた縄文時代晩期末葉の集落で、掘立柱建物58棟、土坑79基、埋設土器11基などが見つかりました。ほとんどの掘立柱建物に木柱の根元部分が残っており、その数は458点に上ります。そのおかげで、建物の正確な形や規模のほか、

柱の位置や太さといった建物を復元するための重要な情報を得ることができました。本遺跡では、6本柱による亀甲形の一方に2～3本の細い柱を取り付ける独特のものが主体を占めます（図1）。これは、三条市藤平遺跡A地点（晩期後葉）で見つかったものと同形式で、この存在を裏付けることとなりました。

このため、建築史学がご専門の宮本長二郎氏（元東北芸術工科大学教授）に掘立柱建物の復元を依頼し、2002年刊行「川辺の縄文集落」（図2）と2004年刊行「新潟県埋蔵文化財調査報告書第133集 青田遺跡」（図3）に復元図と解説を掲載いただきました。この中で、亀甲形の中軸に位置する柱のうち側柱を結んだ線より突出度の小さい方を切妻造り、大きい方を寄棟造りとし、切妻造りの側に屋根の一段低い「落棟」が取り付く案が示されました。そして、こうした建物は縄文時代中期以来の片切妻造り住居の伝統を受け継いだものと推定されました。これを裏付けるように、南魚沼市五丁歩遺跡の9A号住居跡（中期前葉）や魚沼市清水上遺跡のSB130A（中期中葉）、小千谷市城之腰遺跡の47号柱穴列（中期後葉～後期前葉）の柱配置は青田遺跡のものと同形式です。現在、青田遺跡と同形式の建物は胎内市野地遺跡（晩期前葉）のものを最古とし、秋田県にかほ市ヲフキ遺跡や奈良県御所市観音寺本馬遺跡に類似例を確認でき、広域に分布する可能性があります。

さて、図2・3を比較すると、落棟と母屋の間にある妻柱の上部が、図2では梁より落棟側に位置しているのに対し、図3では梁より母屋側に位置し（青色部分）、異なっています。この原因は、宮本氏が作成した図2の原図を当事業団が清書する段階で誤って変更した可能性があり、これに気付かないまま図3を報告書に掲載したものと考えられます。報告書における宮本氏の解説にも「～母屋の落棟側妻柱は台所内（落棟内）に独立し～」とありますので、図2が正しいことが明らかです。

ここで、図2が正しく、図3が誤りであることを明記するとともに、御迷惑をおかけした宮本氏に深くお詫び申し上げます。そして、報告書を読まれた皆様に訂正をお願いする次第です。（荒川隆史）

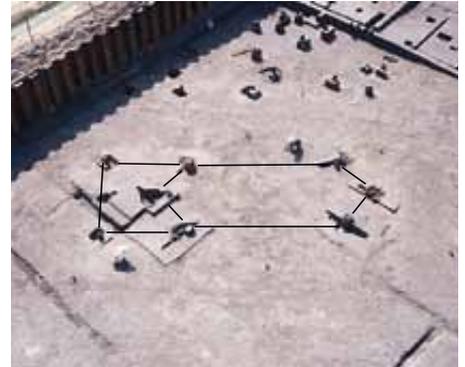


図1 掘立柱建物SB4（長さ10.6m）

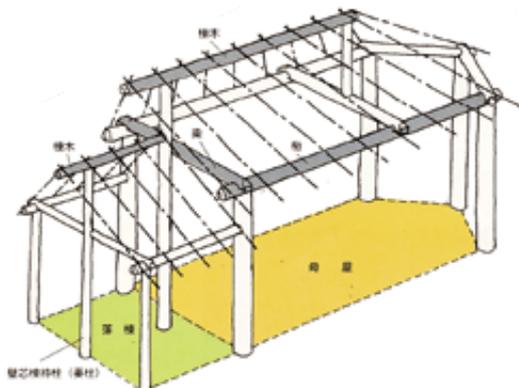


図2 「川辺の縄文集落」図10の復元図（正）

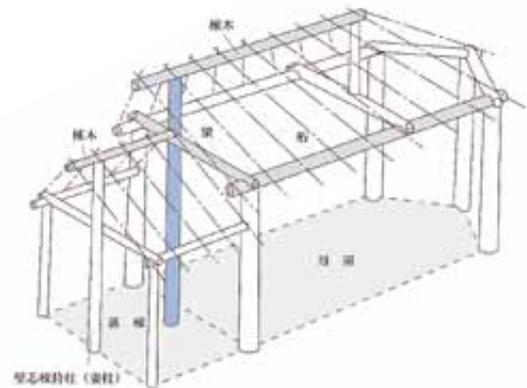


図3 「報告書 本文・観察表編」第158図の復元図（誤）

県内の遺跡・遺物87

もとやしき
元屋敷遺跡出土品2,283点

(平成18年3月28日 新潟県指定有形文化財 (考古資料))

(遺跡所在地: 村上市大字三面字黒淵地内 遺物保管: 村上市 (縄文の里・朝日 奥三面歴史交流館))

遺跡は、新潟県北部の山形県境に接する朝日山地に位置し、朝日連峰に源を発する三面川左岸の河岸段丘上に立地します。標高は約200mです。県営奥三面ダム建設に伴い、平成3～10年にかけて旧朝日村教育委員会が全面調査をしました。その結果、縄文時代後期から晩期の集落であることが判明しました。竪穴建物23棟、掘立柱建物62棟、配石墓・配石土坑99基、土坑墓65基、埋設土器204基、配石遺構53基のほか、道、水場遺構、流路、盛土など多種多様な遺構が見つかりました。遺物は膨大で、平箱 (サイズ55×34×19cm) で土器・土製品約3,500箱、石器・石製品約2,200箱、植物遺存体約100箱を数えます。また動物遺存体も多数確認されました。



遺跡遠景 (西から 元屋敷遺跡は中央下)



後期中葉の土器 (右下高さ20.1cm)



石製の玉類 (右上長さ3.4cm)



岩版 (左長さ12.55cm)

土器は、後期前葉から晩期末葉まで連続するものの、後期前葉、後期後葉、晩期中葉から末葉が特にまとまります。在地の土器のほかに東北北部系の土器や北陸系の土器が認められます。土製品では土偶212点、耳飾り67点、焼成粘土塊71kg、土器片円板9,331点が目立ちます。石器・石製品では、磨製石斧、環状石斧、独鈷石、石冠の成品・未成品が出土しています。特に磨製石斧の未成品は、13,000点を超え、砥石、敲石の工具から大量生産されました。また、独鈷石や石冠の製作工程品は類例が少なく貴重です。玉類はヒスイ製が141点を数え、糸魚川地方との交流がうかがえます。植物遺存体ではトチが、動物遺存体ではニホンカモシカ、ツキノワグマが多く出土しています。

このように多種多様な出土品は、縄文時代の生活や精神文化を考える上で貴重であり、中部地方北部地域の基準資料となるものです。

参考文献・写真出典: 朝日村教育委員会2002年『朝日村文化財報告書第22集 元屋敷遺跡Ⅱ (上段) 奥三面ダム関連遺跡発掘調査報告書XⅣ』

資料提供: 村上市教育委員会

埋文にいがた No.89

発行 (公財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒956-0845 新潟市秋葉区金津93番地 1
TEL (0250) 25-3981
FAX (0250) 25-3986
E-mail: niigata@maibun.net
URL: http://www.maibun.net
印刷 株式会社ハイグラフィ